

第2章 第2次計画の成果と課題

1 家庭における読書活動

成果

7か月児健康相談に来場した親子を対象に、絵本の読み聞かせや絵本配布を行う「ブックスタート」、2歳児歯科健康診査時に絵本の読み聞かせや絵本配布を行う「ブックステップ」、地区センター等を定期的に巡回する「子育てサポートキャラバンぴよぴよ*」で、絵本に親しむ機会を提供する「ブックフォロー」の3段階の事業を継続的に実施しています。

2歳児歯科健康診査を受診した保護者への聞き取りアンケートによると、読み聞かせを行っている家庭は、「毎日行う」40.5%、「一週間に何回か行う」47.3%と高い割合になっています。

また、読み手については、両親を中心に、祖父母、兄、姉などの参加が見られます。

沼津駅前の地域子育て支援拠点施設「沼津っ子ふれあいセンター*」内の、「沼津こども図書室（パタポン）*」は、親子で触れ合いながら絵本を楽しむ場所として、子育て支援センター*を訪れる方等に利用されています。

課題

アンケートからは、各地区センター等を会場として行われるブックフォロー事業や、「子育てサポートキャラバンぴよぴよ*」、図書館のイベントなど、絵本と触れ合う機会への関心が高い一方、実施を知らない人が多いことから、乳児の保護者に向けた情報提供が課題となっています。

2 幼稚園・保育所等における読書活動

成 果

絵本コーナーの設置など、子どもが本を自由に手に取り、見ることの出来る環境の整備は、全ての幼稚園・保育所等（以下この項において「園」という。）で実施されています。

全ての園で、読み聞かせや紙芝居の実施、人形劇等の開催、絵本の貸し出し等、子どもが読書に親しむ機会の充実に取り組んでいます。

なお、日常的に、絵本の動画や電子書籍などのインターネットを利用した読書等を取り入れている園はありませんでした。

園の広報紙などを通じた本の紹介や、絵本等の販売機会を提供する等、保護者に、子どもの発達段階に応じた本を紹介する等の啓発活動には、86.5%の園が取り組んでいます。

また、園の広報紙・たより、行事や保護者研修会等の機会を通じて、幼児期の読書活動の重要性を啓発する活動は、78.8%の園で取り組んでいます。

課 題

毎月15日に私立幼稚園を中心として行っている、テレビを消して親子で触れ合う機会を設ける「おやこんぼ」など、家庭内での子どもの読書習慣のきっかけづくりに向けた取り組みが大切です。

家庭での安易なインターネット動画の視聴についての意見が多く、親子の触れ合いを基本とする読み聞かせの大切さと共に、今後、家庭でのインターネットの取り扱いについての情報提供が必要となっています。

3 学校における読書活動

(1) 学校における読書指導の充実

成 果

校内一斉の朝の読書は、全ての小中学校で実施されています。

読み聞かせは、小学校95.0%、中学校38.9%、全体では68.4%の学校で実施しており、読み聞かせの実施者は、教師によるものが50.0%、読書ボランティアによるものが44.7%です。

ペア読書等の異学年によるものは34.2%で、その他、朗読の校内放送やブックトーク* 等のお話し会など、各学校で実態や環境に合わせ、読み聞かせの形態を工夫しながら実践しています。

推薦図書や必読図書の選定・紹介を行っている学校は73.7%あり、これらを完読した子どもへの賞揚を行っている学校は63.2%となっています。

授業等における読書活動を充実するため、授業での学校図書館の利用や、調べ学習、ブックトーク*、ビブリオバトル* など、多様な読書活動を実施している学校が増えています。

幅広い読書案内を行っている学校は84.2%で、そのうち、本の紹介カードなどを実施している学校が60.5%、その他、本のポップ* づくりや教員・学校司書*・生徒からのお勧め本の紹介掲示など、多様な方法で読書案内が行われています。

課 題

新型コロナウイルス感染症への対応に伴う朝読書の中断や、読書ボランティアの活動の見合わせ等がみられましたが、各校の状況に応じたきめ細かな対応を継続し、読書指導の充実を図っていく必要があります。

(2) 学校における人的環境の充実

成 果

司書教諭* が配置されている学校は35校で、うち14校は配置が義務付けられていませんが、本市独自に司書教諭を配置しています。

学校司書* 19人が配置計画に基づいて各学校に置かれ、週1～2回、学校図書館等での業務を行っています。

保護者や地域のボランティアとの連携を図っている学校は50.0%で、読み聞かせや、学校図書館の本の整理・修理、展示・装飾などの活動を行っています。

司書教諭* や図書館担当教諭等が、県や市が主催する子どもの読書活動の推進に関する研修会に参加した学校は、100.0%となっています。

課 題

学校司書* の活動する場を増やしたいという学校が多く、勤務する日数や時間数の増加が求められています。

(3) 学校図書館の機能の充実

成 果

学校図書館図書標準* を達成している学校の割合は、小学校83.3%、中学校52.9%で、図書整備率* は、小学校117.3%、中学校99.5%と、いずれも大きく上昇しました。

図書購入に際し、選書基準や参考とするブックリストなどがある学校の割合は、小学校45.0%、中学校44.4%となっています。

また、子どもや教職員の希望に基づく図書の購入は、ほとんどの学校で実施されています。

全ての小中学校図書館の図書管理システムが更新され、図書の貸し出しや返却、登録、蔵書管理、統計を利用した指導等が適切に行われています。

課題

司書教諭* や図書館担当教諭、学校司書* 等が連携し、学校図書館の書籍や新聞等を授業に活用するなど、学校図書館の「読書センター・学習センター・情報センター*」としての役割を更に充実させる必要があります。

(4) 家庭への啓発

成果

学校だよりや学校ホームページなどで、子どもの読書活動の様子等を、保護者に向けて情報提供している学校は、小学校80.0%、中学校27.8%です。

また、学級懇談会や保護者会等を利用し、家庭読書などの啓発活動を行っています。

課題

今後、インターネットを活用するなど、多様な手段で、家庭での読書の推進に関する情報提供を進めていく必要があります。

4 市立図書館における読書活動

成 果

大人に子どもの本の楽しさを伝え、家庭での読書を推進するために、「こどもの読書週間* 講演会」や「読み聞かせ講座」等、講演会や講座を開催しています。

また、子育て中の人や仕事を持っている人の参加を促進するため、参加しやすい曜日の設定や、ボランティアの協力による託児を実施し、保護者が参加しやすい環境づくりに努めています。

児童室では、子どもたちが幅広い分野に興味を持つよう、季節や社会の出来事をテーマとした特集コーナーや、本の福袋*、ぬいぐるみおとまり会* など、図書館を身近に感じる取り組みを行っています。

また、人気シリーズ本コーナーの設置や、子どもが他の人に勧めたいと思う本の情報提供など、新たなジャンルの本を手にするための仕掛けづくりを行っています。

学校図書館の支援に向けては、学校司書*の実務研修を図書館主催で実施する他、県や各種団体等の研修情報等を提供しています。

また、学校と協力し、小中学生によるビブリオバトル*等のイベントを実施することで、読書への興味を持つきっかけづくりを行っています。

障がい者ボランティアについては、アイ・ボランティアルームでの書籍や資料の点訳・音訳の制作等を引き続き支援しています。

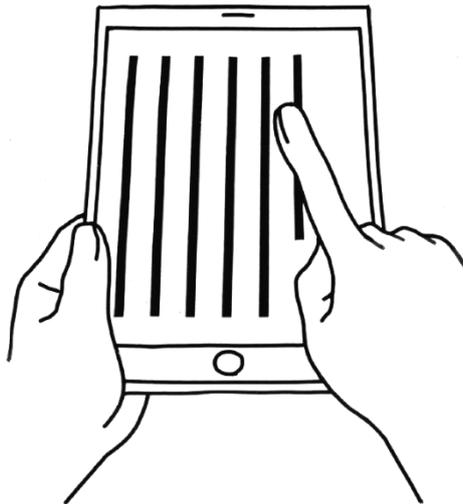
「ぬまづ電子図書館」を開設し、子育て世帯等、時間が無く来館が困難な人もインターネット回線を利用して、いつでもどこでも読書を楽しめるサービスの提供を令和3年1月から開始しました。

課 題

ボランティアの高齢化や、新型コロナウイルス感染症による活動自粛などにより、本に関わる民間活動の低下が見られることから、ボランティア育成のための講座開催や、他団体が実施するイベント等に参加することで、人材の発掘や新たな団体との連携づくりを進める必要があります。

子どもの読書率は、年齢が上がるにつれて低下する傾向が見られるため、中学生や高校生の読書離れに向けた取り組みとして、更なるヤングアダルト* コーナーの蔵書充実を図ると共に、コーナーのレイアウトの工夫、ヤングアダルト* 本の情報提供等に取り組む必要があります。

ぬまづ電子図書館では、ICT活用教育* での利用、障がいのある人に便利な読み上げ機能が付いた書籍や外国語対応の絵本の充実、郷土資料のデジタル化など、電子書籍の特徴を生かした取り組みを進めていく必要があります。



5 地域における読書活動

成 果

市立図書館、戸田図書館及び16地区センター図書室とのネットワークを強化し、どの施設の蔵書も、互いに貸し借りや予約が出来る仕組みを導入することにより、地域における絵本や児童書等の選択の幅を増やしています。

また、地区センター図書室の一部の蔵書を巡回させ、各地域の配架書籍の循環を良くし、子どもたちがいつでも新しい本に触れられるよう努めています。

課 題

地区センター図書室が、地域における読書活動推進の場として、更に活用されるよう、地域住民に一層の周知を図っていく必要があります。

幼稚園・保育所等や学校、市立図書館、地区センター図書室などが、それぞれ地域と連携を深めていくことが大切なため、地域に向けてSNS等を活用し、日常の活動や行事、イベント等の幅広い情報発信が必要となっています。

家庭文庫* や店舗の一角を利用した図書スペース、まちづくりイベントでの本の読み聞かせブースなど、子どもたちが本に興味を持つよう、民間と連携した取り組みが大切です。

6 アンケート結果から見た現状と課題

第2次計画の終了に当たり、「読書に関するwebアンケート調査（小学校5・6年生、中学生用）」（回答数6,538件）、「子どもの読書に関する保護者webアンケート調査」（就学前児童、小学生、中学生の保護者 回答数6,909件）を実施しました。

また、今回は、高校生の読書の現状を把握するため、市内の県立・市立・私立の高等学校各1校に協力を頂き、「読書に関するwebアンケート調査（高校生用）」（回答数1,157件）を行いました。

家庭での読書習慣

「読まない」と答えた割合は、小学校5・6年生10.4%、中学生24.5%、高校生32.1%と進学するにつれ高くなり、「毎日読む」と答えた割合は、小学校5・6年生22.6%、中学生12.8%、高校生6.7%と低くなる傾向が見られます。そのため、早い段階から読書を習慣付けることが重要です。

なお、インターネットを使った読書については、「読む」と答えた割合が、小学校5・6年生25.9%、中学生34.9%、高校生63.3%で、高校生では半数以上となっています。

保護者自身の読書時間

「ほとんど読まない」と答えた割合が47.9%、「月1～2冊」が35.9%という状況です。また、保護者が「ほとんど読まない」場合、その子どもの読書時間も同様に「ほとんど読まない」割合が高く、保護者に対する読書啓発が重要です。

なお、インターネットで読書をしている保護者は45.1%とほぼ半数でした。

本を読むことが好きと答えた割合

「本を読むことが好き」「どちらかといえば好き」と答えた割合は、小学校5・6年生80.9%、中学生72.9%、高校生78.7%、保護者65.8%と高くなっていますが、前述の「家庭での読書習慣」等の状況を見ると、実際の読書活動に向けたきっかけづくりが大切です。

本の種類

就学前児童の89.5%が「絵本」でした。

小学生では、低学年は「絵本」が67.5%と最も多く、中学年では「小説・物語」28.2%、「絵本」27.9%、「マンガ・雑誌」21.4%、「科学・歴史・社会」15.1%と読書の幅が広がっています。

一方、高学年になると「小説・物語」39.5%、「マンガ・雑誌など」30.6%、中学生では「小説・物語」44.0%、「マンガ・雑誌など」39.5%と読書傾向が定着してきています。

そのため、読み聞かせから一人読みの時期においては、子どもの興味に応じた本の整備が大切です。

